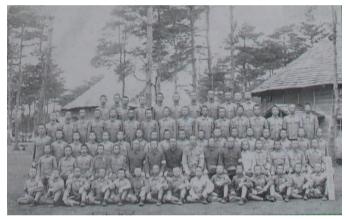
夢と希望、そして奈落の底へ

津南郷の満蒙農業開拓団、満蒙開拓青少年義勇軍

津南郷7ヵ村から、北「満州」の三江省(現・黒竜 江省(こくりゅうこうしょう)) 鶴立県(かくりつけん) 東俊徳(しゅんとく)に92戸が入植しました。満蒙開 拓青少年義勇軍(15歳~18歳)の派遣が、県内でもっ とも多い村の1つが外丸村(現・津南町)30人の青少 年が茨城県の内原訓練所で3ヵ月の訓練を受け、満州 に渡りました。

茨城県 満蒙開拓青少年義勇軍の内原訓練所にて



しかし「夢と希望」の日々は長くは続かず、昭和 20年8月、ソ連軍の侵攻、終戦により、生死の境を さまよう悲惨な逃避行を体験することになります。

津南郷満蒙開拓団 1944 満州の鶴立にて



骨を埋めるつもりで満州へ

当時の津南郷7ヵ村の戸数は3670戸。満州移民の 県から割当目標は300戸でした。対象は零細農家や 農家の次・三男に向けられました。しかし故郷を離 れ、知らない満州に自ら進んでいく人はほとんどいません。各村の主立ち衆が必死になって、村ごとに講演会映画会を開いて渡満をあおり、個別に訪問して説得しました。「校長先生や村長に勧められ、決意した」人もいました。多くの人が、満州に骨を埋める覚悟で、財産を処分して出発したのです。

当時の村別移民送出数(92名)

村名 人数比率 村名 人数比率 外丸村 26 28.3 上郷村 16 17.4 芦ヶ崎村10 10.9 秋成村 33.3 中深見村 44.3 下船渡村 88.7 倉俣村 19 20.6 その他 66.5

ソ満国境ぞいの奥地へ

満州への経路は、新潟港を出港し、朝鮮の最北の 港羅津へ。そこから汽車で北上し、牡丹江、佳木斯 から松花江を渡ってさらに北上、峻徳駅で下車。そ こから東へ6キロほど歩いて開拓地に着きました。近 くに鶴崗炭鉱があり、ソ連との国境ぞいでした。

津南郷からの入植者は、上郷、外丸、その他30戸 単位に3集落に分けられました。各集落には、2戸建 ての家屋が15棟ずつ建てられ、団長を決めました。 入植当時は、極寒の冬と狼に脅えながら野菜や家畜 での貧しい生活でした。これからという時、終戦で した。

老人・女子だけの逃避行

「満州に行けば召集はない」はウソでした。敗戦の年には、現地召集が始まり、ついに「根こそぎ動員」で、青少年義勇軍も入植者の男たちもみんな召集され、女子ども年寄りだけが開拓地に残されました。そこへソ連軍の侵攻。着のみ着のままで、乳飲み子を背に、子どもの手を引いて、しのつく大雨のなかの逃避行でした。やっとの思いで最寄りの駅にたどり着いても、列車は軍人優先で一般人はいつまでも待たされました。

(『津南町史通史編』より。写真は中村昭吉さん提供)